

議長（高木将君） 次，25番生田目久夫の発言を許します。

〔25番 生田目久夫君登壇〕

25番（生田目久夫君） 25番生田目久夫でございます。議長のお許しがありましたので、事前通告をいたしておきました常陸太田市駅周辺整備事業，それから，県道稲木木崎線，通称木崎トンネルの進捗状況について，それからもう一つ，国道293号バイパスの進捗状況について，これは身近に考えたときには，増井町，瑞竜町を横断する道路であります。この3つについてご質問を申し上げます。

ご質問を申し上げる前に改めて申し上げますが，私ども議員が，住民の代表として市行政全般について質問をすることは，議員固有の権能であって，住民の信託にこたえて，執行者の所信や疑問について質問を得ることは，議員としての使命を果たす職責であると信じております。議会は，一般的に批判と監視の府と言われておりますように，議員は質問を通して，市政の事務事業について，政治責任を明確にすることによって，公平・公正・効率的な行政確保を図るための一般質問というものは，その意義の使命というものはまことに大きいと言わざるを得ません。したがって，本来の権能を考慮するとき，私ども議員は，心の資質や能力を高めるために，日常を通じて常に調査研究を重ね，住民の負託にこたえるよう努力をしていかなければならないと思っております。

申すまでもなく，地方公共団体の首長と議員は，おのおの相関関係の信頼の中で，真摯にしっかりと支え合っていかなければならないと思っております。こうした思い，考えの中で，ただいまよりご質問を申し上げます。

前日も申し上げましたが，この問題につきましては，この地域は長年の懸案であり，また，平成12年度から開発指定地域にもなっておったところであります。ところが最近になりまして，突然降ってわいたような，市当局の，変則開発と多額の建設費のむだ遣いになる等々と，このような実施計画，説明では，到底納得が得られないと，こういう大きなうねりが出まして，この意見によりまして，開発には大賛成だと，しかしながら，もう少しこの問題は深く考え直し，見直しをお願いしたい，こういう住民の切実な願いのもとに，急遽407名という，本当に血の出るような請願書が，市長のもとに提出されておったわけであります。

ところが，今考えますと，昨年5月17，18日の両日に，初めて地元山下町集会所におきまして，午後7時から，部長を初め約8名の方が2日間参りまして，そのときには大変な問題になりましたが，何とかこの騒ぎを抑えようということで，見直しということをおっしゃって帰っていただいた。私も中に入りまして，議員という立場で，何とか地域住民の声を本当に受けとめていただいて，何とか見直しをしてくれるであろうと，こういうふう感じておった。

ところが，平成20年度の一般会計主要事業ということで，暫定駅周辺整備事業費ということで，3億3,145万5,000円というものが計上されたわけであります。結局，開発は賛成だが，もう少し時間を置いて考えて見直してくださいという切実な407名の陳情者の思いを，市長はどういうふうにとめて，今日，強攻策に，こういうふうに出ているのか。この辺についてお尋ねをいたします。

地元のそういう方からぜひ聞いてくれということでもありますので、私も一生懸命……、何か花粉症みたいな気がするんですが、一生懸命頑張ります。

次に、県道木崎稲木線の進捗状況についてであります。

都市計画道路木崎稲木線、仮称木崎トンネル工事業は、ご承知のように平成9年度に着工いたしまして、今年度までに約11年経過をいたしており、その総工費というのは53億円を予定しております。現在までに約30数億円が使われておることでもあります。この事業は、慢性的な交通渋滞で、特に都市機能の充実を図る上で、幹線道路が集中し、変則5差路となっているため渋滞している駅前周辺の交通状況の改善等を図り、特に県道日立笠間線は、ご承知のように幅員狭小で急勾配であり、一方通行区間があるなど安全快適性が確保されていないなど、特に都市機能の低下など、これらの問題を緩和させるために、安全で豊かな市民生活の実現のためには、地域振興、また活性化のためにも、生活基盤・基礎となる本路線の整備は必要不可欠であると。この幹線道路の完成をすることによって、市民の日常生活や防災道路としての機能充実と、さまざまな効果が期待されます。こういうことが云々ということで、県土木の建設課でも、このようなことをおっしゃっております。

この事業の現在までの進捗状況について、お伺いをいたしたいと思います。

次に、国道293号線バイパスの進捗状況についてであります。

先ほど申しましたが、この道路は、間近には増井町・瑞竜町を結ぶ路線で、常陸大宮市から日立を東西に結ぶ物流の拠点となり、都市機能の充実を図り、地域の振興の活性化や生活基礎基盤の基礎となり、安全・快適で豊かな市民生活の実現のため、本路線の早急な整備は必要不可欠であります。殊に増井町や瑞竜町などの住民の期待は、大きいものがあります。この道路がいつできるんだか、できたら、本当にこれ以上の便利になることはないでしょうねと、早くお願いをしてつくっていただきたいと。今騒ぎになっております道路云々の問題、なくなっちゃったら本当にできないんだからというような声が聞こえてくるわけであります。

この事業の現在までの進捗状況について、ひとつお願いをいたします。

とりあえず一応、これでご説明をよろしくお願い申し上げます。

議長（高木将君） 答弁を求めます。市長。

〔市長 大久保太一君登壇〕

市長（大久保太一君） 駅周辺整備事業の見直しに関連してのご質問にお答えをしたいと思っております。

駅周辺の整備につきましては、以前よりも申し上げておりますとおり、変則交差点の解消による交通安全、あるいは駅利用者の利便性の確保、さらには駅東西の連携の強化、常陸那珂港や日立港への物流道路としてのボトルネックの解消、市の玄関口、情報発信基地としての都市機能の充実等々、重要な役割を担うものでございます。

この計画策定に当たっては、地元及び市民の皆様への説明会を開催してきたのは、ご案内のとおりでございます。そして、その後におきましても、費用をミニマイズしてこれを実行するということを考えまして、都市計画法に定められました手続、すなわち常陸太田市の都市計画審議会、

さらには茨城県都市計画審議会等の可決を経まして、現在の計画をもって、今後とも事業推進してまいりたいと思います。

議長（高木将君） 建設部長。

〔建設部長 川又和彦君登壇〕

建設部長（川又和彦君） 都市計画道路木崎稲木線トンネルの進捗状況についてお答え申し上げます。

現在、県におきましては、国道349号の旧道から東側の国道349号バイパス手前の交差点までの区間におきまして、既存の雨水管線の布設がえでございます暗渠化工事を現在実施してございます。来年度も、引き続き暗渠化工事を実施する予定としてございます。また、来年度、すなわち平成21年度末には、東側よりトンネルの掘削工事に着手し、平成22年度末に完成、トンネルを含む全線も供用が開始される予定となっております。

次に、国道293号バイパスの現在の進捗状況と今後の見通しについてでございます。

まず、国道349号バイパスから西側の増井・瑞竜工区約2,100メートル区間についてでございます。増井町の源氏川から西側区間につきましては、ほぼ用地取得を完了し、源氏川東側と誉田小学校に至る市道までの区間につきましては、約8割の用地を取得してございます。さらに、本年度から一層の事業進捗を図るため、瑞竜工区におきましても用地取得を進めてございまして、本年1月末現在で、用地取得状況は約29%となっております。

次に、常陸太田工業団地から東側の小目町国道293号までの区間3,200メートルについてでございます。この区間につきましては、既に世矢小学校から東側の延長320メートルが供用開始され、本年度は真弓町の弁天川橋りょう上りょう部及び関連する改良工事と、常陸太田工業団地東側の延長90メートルの改良工事を実施してございます。

進捗状況については以上でございます。

議長（高木将君） 25番生田目久夫君。

〔25番 生田目久夫君登壇〕

25番（生田目久夫君） どうもありがとうございました。

3番目の瑞竜につきましては、よく理解をできました。何とかひとつ、今の問題にならぬうちに何とか完全供用ができるように、ひとつよろしく願いをいたしたいと思います。

それから、2番目のトンネルと駅前開発というものは非常に関連をしております、先ほど申し上げましたように、駅前の交通緩和は、トンネルをも通るんだと。平成9年から、ご承知のように始まっております。53億円といいますから、昔でしたら金利で見たら、8分から1割というと、10年たつと、53億ですから約倍近くになる。どうもこの間のテレビでも、日本は道路のつくりが高過ぎるんじゃないかというような話もありますが、それは別にしまして、今、市長からもご丁寧にご説明をいただきましたが、どうも、何としても、善意に解釈しようと思っても、理解ができないんですね。何としてもできない。

私も、先ほど申しましたように、いよいよ見直しをしてくれるんだと。何とか多少も見直ししてくれて、スムーズに進めてくれるのかなと。道路財源の問題じゃないですが、それになる

前にというように思いましたが、本日、ご承知のように3億3,000万、ことし出てきて、予算に計上された。どうも私、この辺が何としても理解ができません。

近くの住民が本当に真剣にやって、この不況で、私どもは本当に11年も前から、あなたのところは開発地域に入っているんだから、あまりむやみに金かけないでくださねというような状況でずっといたわけです。ところが、そういうことで、急に日立電鉄の廃線となったら、いきなりその話になりまして、結局、山下町集会所で2日間説明会があったと、こういうことになってできたのであります。それで、住民の方々も、ぜひ改めて議会のほうで私らの声を訴えてくれというようなことで、こういうことになっております。

申し上げますが、常陸太田市山下町の住民は、今、疑心暗鬼の状況にあります。なぜかと申しますと、長年、地域住民、結局開発予定地区ですから、その懸案であります常陸太田駅周辺まちづくり計画が平成12年度から始まり、過去6回の説明会が行われてきたのですが、諸般のいろんな事情によりまして、これという決定案も見つからず、今日まで至った次第であります。

しかし今回、突然、市と県の事業で、山下町交差点を核とした、市は、駅舎建設並びに交通広場等、県は、改めて国道293号、国道349号の山下交差点の改良工事として計画を立てまして、地域の住民の意見意向も一切聞いておりません。そういうことで、一方的に進めてきたということで住民の意向で、まさに今決定されようとしていると。

一部の地権者を除き大多数の地権者、住民及び市民は、この施設計画には絶対反対であると。なぜかと申しますと、昨年5月17、18日の両日に、地権者説明会があり、喜んで私どもは参加したと。84名の出席者があり、そこで初めて道路計画平面図なるものを見せられ、あまりにも不規則で不自然な点が多く、特に駅舎は、今までと違って、線路のこっち側にあったのが向こう側へ行ってしまう。そして、それも、あまり例も聞いたことない、西向き、北向きというような感じのもとに、そして、交通広場も不必要性、あるいは道路整備の何だかんだ逆だななどと言って、地権者や住民の怒りが爆発しました。そして、罵声や怒声ですから、本当に聞いてられないようです。議員も四、五名、2日見えておりますから、よく存じておりますが、終始、結局困難の中で、両日ともに、本当に何もなし。結局、解散に追い込まれてしまった。

地権者や住民関係者の本当に待望していたまちづくり、10年以上も待っていたんですから。修理もしないで、何とか負担をかけないようにして、有効的に活性化を図ってもらおうという思いで、皆さん待っていたわけです。そういうことで、私どもの待望したまちづくりとは、とてもほど遠い計画だと。市政の責任はまさに重大であるというようなことで、現在の道路の建設にしても、今、申されたように、本当に虫食い状態ですよ。これが、仮に今問題になっている道路特定財源が廃止にされたら、1本の道路も完成しないままになってしまうんじゃないか。これでは、果たして常陸太田市の発展があるのだろうか。こういう皆さんの声であります。こんな現況の中で、県の事業である国道293号線、あるいは国道349号線の道路改修工事が、駅前周辺まちづくりの中で、今決定されようとしておるわけでありまして。

また、現在、先ほどもお尋ねをしましたが、日立笠間線、通称木崎稲木トンネル工事が、平成9年度から総事業費53億円で着工されており、太田市役所手前から市の高台下を経て西側、国

土交通省側に開通されるとなりますと、ご承知のように日立の6号方面から、水戸方面から、そういうバスや大型車の、あるいは乗用車等が、太田の駅前を進入することなく、おそらくそのバイパスを左折して、トンネルを通過して、金砂郷地区、水府地区、あるいはその先へ行きまして、常陸大宮市、笠間市と、こういう方向を通過するであらうでしょう。

それに加えて、ことしは、先ほども建設部長からありましたが、20年度完成予定という仮称木島橋、これは皆さんのご承知のように、金砂郷の小島から橋を渡って那珂市の門部へとつなぐものでございますが、これも平成12年度から総事業費が38億円と言われる。こういう膨大なお金をかけて、着工しておるわけで、これも完成すれば……、ことしで完成するわけですよ。これが完成しますと、水戸市、あるいは東海村からひたちなか市、那珂市、すべてのあの辺の方向の地区の方が、短時間で水戸へ行ったりこっちへ来たりという、こういう両線が開通を間もなくいたす。そして、太田駅前の車両の乗り入れというのは、ご承知のように、多分、現在の3分の1以下に減るのではないかと、こういうことが予想されております。

電鉄が日立製作所の雇用問題で開通したのは昭和4年であります。私のおやじなんかもそれを見て、あそこへ土地を買い、店を開いたと。そういうずっと歴史があって、その方が全部今までのことを知っているわけですよ。

そういう中で、ここ1年にできるものを、なぜこの金がないときに、今この時期に、23億円ですよ。市は、ご承知のように、県内で何番目ですか。93.9%という数字が並んでいるんですよ。それに、もう事業はできないという段階にあるのに、補助が幾ら出るからとか、何が幾らだと。結局は住民の、市民の負担になってくるわけです。そういう金を工面してまで、この工事を急ぎ、何をそんなに急いでやらなきゃならないのかなど。両線が開通して、交通量の調査をよくしてもらって、その流入量というものを確かめて、その上で、本当にあまりお金のかからない、効率的な、確かに合併後の常陸太田市の玄関口にふさわしいものをつくっていただきたいと、こういう願いなのであります。

今の駅前開発の説明によりますと、道路の拡張、あるいは歩道の拡張整備、それから現在3カ所、横断歩道があるわけです。上から行くと、菊池時計屋さんという三差路、市内に上がる大宮方面、建設省へ行く、そこに1カ所、それから駅前タクシーさんの隣に1カ所、私の前に1カ所、こういう3カ所。この3カ所を2カ所にする。道路も広くする。そして、歩道を広くする。そして、あげくの果ては、今、人命の、命の綱とも言われる歩道橋も撤去する。そして、あげくの果てには、その道路の拡張したところに、人口30万だ、50万だと言われる大都市の駅前の交通量と似たように、スクランブル交差点をつくるんだと。どうなんですか、これ。

先ほども皆さんがおっしゃっているように少子高齢化、歩く人はどんどんふえるが、子供は少なくなる。したがって、車の利用度も少なくなる。小中学校の統合がある。高校の廃校・統合もあるという時代が来るんですよ、今から。そういうときに、駅前にそんなでっかい道路をつくって、今までさえも渡るのに大変な……、車を押して渡る年寄りなんかは、信号が変わるところにやっとなんかまで行くような状態ですよ。皆さんご承知ですが、あれだけ広いんですよ、道路は。それをさらに今回直して、大きくして、しかもスクランブルだと。

議長（高木将君） 発言者に申し上げます。お時間のある中での発言ですから、ぜひ……。

25番（生田目久夫君） 黙って、ちょっと聞いてください。

議長（高木将君） すみません、発言者、お聞きください。先ほどの発言中に、こっち、あっち、それから路線名ですね、それから木島橋に関しましても、発言の間違ひがありました。これについては後ほどご訂正いただきたいと思いますが……。

25番（生田目久夫君） わかりました。時間がないからいいですよ。

議長（高木将君） 時間はとめてあります。数字的なものにつきましては、具体的な議事録にも載りますので、どういった調査から出てきた数字であるかという、その辺についても明確にさせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。それから、質問の要点についても絞り込んでお話をいただきたいと思います。

25番（生田目久夫君） わかりました。これは住民から、この議会内でも訴えてくれということでありますので、それを私は受け取ってきて何しているんですが、そういうことで、全く無意味ではないかなと。我々、駅前の商店街だ何かは、生きるために必死で営業しているんだと。駅前商店街が、こんなことをしていたら死活問題だと。そして、将来は、大打撃を受けて1店もなくなってしまうんじゃないのというような、非常に深刻なんですよ。

厚生年金でもある方はいいですよ。本当に昔からの商店街をやっていた人をごらんください。みんな年金暮らしですよ。そしてある程度年配になると、労力もなくなる、能力もなくなる、どうして生活をするかという、そういう深刻なときに、既に日立では日立電鉄線の線路部分が市に無償で譲渡され、久慈浜構内と大甕駅陸橋を市が買い取るとの新聞報道がありましたが、このように、常陸太田市と県の都市計画課が何よりも先に優先しなければならないことは、道路整備とか駅舎建設とか交通広場建設とか歩道橋の撤去ではなくて、日立電鉄 先ほども立原議員がおっしゃっていましたが 跡地の問題を解決するという、このほうが先だと思います。皆さん、そう言っています。

この件を後送りにすることはまことに変な話で、新しい駅舎建設、交通広場の建設等に16億円という大金を使って、借金だらけの常陸太田市の財政の中で、しかも市がその全額負担して……。今では国鉄じゃありません。一企業のJRに無償で貸与するという前代未聞の話は、だれが一体どこから持ってきたんだという。また、だれが発想したのだろうか。市民感情としては非常に許しがたく、また、税金等激減の行財政の中で、計23億円というプロジェクトを進めようとする県と市の都市計画課のあり方、建設時期や建設設計の見直し等、地域の地権者、商店街、住民による、何回も申し上げますが、建設には賛成だが、よく時間をかけて見直してからぜひお願いしたいという、この切実な願いなんですね。400人。こういうものを再考していただいて、そして大久保市長の判断によって、これをしていただきたいというのが、こういう地域の願いなのであります。

大久保市長は、この前にもおっしゃっていましたが、ある……、茨城県新聞でしたか、行政と地域の住民はともに話し合い、真の市民協働のまちづくりと。人がいて、地域がありますと、魅力的な人が暮らし、市民一人ひとりの活動に生きる力がみなぎっていることが、まちの快適環

境と元気のもととなります云々、こういうことをおっしゃっているんですね。

また、先ほどもその中にありましたが、あくまで住民本位の行政だと、今、部長がおっしゃってありましたが、これから常陸太田市のそういうテーマのもとに建設計画をしていくんだと、こういうことを言っておるわけです。

ところが、今これで申し上げましたように……、何でこんなんだ。そうしましたら、こういう問題が出てきました。私も、いよいよ予算化されたから大変だと。中に入って、まあ何とかしてくれるから少し待っていなよという形でやっている。そうしまして、どうも予算が出たから変だと思って、私、ここ四、五日いろいろ研究をしました。そうしましたら、こういう新聞が出てきたんです。

これは、読んでみますと、茨城新聞です。平成17年7月2日土曜日、常陸太田駅の周辺整備計画見直しを表意、大久保市長。常陸太田市の大久保市長は、1日の定例会見で、同市が計画している常陸太田駅周辺整備計画について、日立電鉄線廃止に伴い、これまでに地元地権者に示した計画は白紙に戻さざるを得ないと述べ、整備規模を縮小し、計画を見直す考えをあらわした。こういうものが新聞に出てきている。これは、地域の住民も知っているんですよ、みんな。

それで、こういう時点で、設計図は10年から12年かけてつくっていいんだよと。それで、一番いいのを見たんだよ、言っているから納得いかないでしょう。これ、市長……。

議長（高木将君） 発言者に申し上げます。要点を絞り込んでいただきたいと思います。

25番（生田目久夫君） この時点から変わっているんです。これを住民がよく知っているんです。

議長（高木将君） 何を質問したいのか、要点を絞り込んでいただきます。

25番（生田目久夫君） ですから、こういうことで、結局、これまでのを翻したという、ここに問題があったわけです。

いろいろ私も調べまして、これがありました、前の私の質問に対して、「国土交通省が最近発表した最優先して改良すべき交差点の中には、常陸太田駅前が挙げられている。その背景は、車が1億台1キロ走るとした場合に常陸太田駅前交差点を中心に、そこでの死傷事故の発生率が715.2件発生している。これは、交通戦争の言われた昭和40年代と同じ単位での数値300件を2倍以上超える死傷事故の発生交差点として、国交省は優先的に投資をして改良する交差点ということで挙げられている」と、こういう説明があったんですが、地元の人みんなこれを見て、何を言っているんだ。そんなにあるわけない。1日2万2,000何百台という統計が出ていますが、こんなに走っていたって、1カ月に1台か2台の事故しかないだろうと。これいいかい、こんなことで、駅前を変え、交差点を改良するということはいいいかがなものだと。こういうことなんですね。

結局、私、ここでお願いしますが、この交差点、これは何もこういう億単位の云々くんぬんって、いろいろ計算方式も何もあるようですが、そういう問題よりも、太田警察署へ行くと、駅前の事故というのはずっとあるわけなんですね。おそらくそれを基本にしてやっているわけですから、この数字をぜひここへ見せてもらって、こういう変な計算では我々はなかなか大変ですから、

理解に苦しみますから、それを出していただくということ。

それから、今、申し上げますが、駅周辺整備事業、この3億3,144万5,000円、その内容は、1、暫定駅前広場整備工事、それから2番が駐輪場移設工事、3番目がペDESTリアンデッキ、今の歩道橋ですね、それから、用地取得等々、これはどこの用地を何しているのか、この辺の明細をよくここで何していただきたいということ。

それから、いろいろあります。時間がありませんが、後でご質問しますし、これはまた次の段階でもやりますけれども、もう一つ、今回の駅周辺整備につきまして、これは今も言ったように、いつの間に認可されたのか。常陸太田市にもご承知のように議会でも4委員会がありまして、それが1つ出ているわけですが、それでもって都市計画審議委員会というのが構成されているわけです。県で認可されているんですから、おそらくその認可をするためには、たたき台になっているこちらの委員会の議事録というのが行っているわけだと思います。その議事録をひとつここで提出していただきたい。

あわせて、県でやりましたね。19年10月4日ですか、午後1時半から水戸笠原町の茨城県町村会館1階の講堂でやったと、こういうことになっておりますが、その議事録もひとつここへ出していただきたいということです。

それから、いろいろありますが、返事がなくなるようでは困りますので、この辺でとにかく何しますが、この前の14年のときに、基本設計が出ている。平成14年。これには、日立から進入をしてきて、太田の踏み切りを渡って駅前に突き当たりますね、ご承知のように。その突き当たる、その両側に、こっちには商業ゾーン、こっちにはバスターミナル、いろいろなこういう均衡のとれたものであったというのは先ほど申しましたとおり、こういうものでずっと来たんですが、今回になりましたら、これががらり変わりました、こっちは全然無関係。駅、上に上がるところも無関係。ほんの、この電鉄の場所ですね。踏み切りを渡りますと、今の使っております道路は廃止して、電鉄バスが発着していたあの広場の真ん中を道路が新たにつくられていくと、こういう形になっている。それで、そのわきの土地も、戸崎さんですか、通って、大宮方面につなぐと。

それで、今度は右側の市役所のほうへ行く通りは、その前の商店街をかすって向こうへ行くから、これも一途にすると。こういうような説明になったので、何をふざけているんだと。今までこんなことをやっていて、これから全然ニュースが入らなくなったのに、なぜこういうことをしているんだということでもあります。

とにかく、こういうことでもありますので、今申し上げましたものを提出していただき、それから、今の問題について、またご説明いただけるならば、ひとつご答弁をいただきたいと。とにかくまた、時間が、次の段階でやらせていただきますが、とにかくご清聴ありがとうございました。よろしく願い申し上げます。

議長（高木将君） 生田目議員、今、お求めになった資料提供については、通告のときにお話をしてありましたか。

25番（生田目久夫君） いや、ありません。

議長（高木将君） ないとすると、もしこの場で提示できない場合には、後でということになります。そういうことで……。

〔私語あり〕

議長（高木将君） 答弁を求めます。建設部長。

〔建設部長 川又和彦君登壇〕

建設部長（川又和彦君） 駅前整備事業について、3点かと思えますけれども、ご質問にお答えしたいと思います。

1点目が、おそらく死傷事故率のことかと思えます。

〔私語あり〕

議長（高木将君） 続けてください。

建設部長（川又和彦君） 交差点につきましては、それぞれ人身事故件数、それから交通量、交差点の大きさなど、諸条件がそれぞれ異なりますことから、その危険度を評価するため、国では、死傷事故率を補助採択の1つの指標としているところでございます。これは、簡潔に申しますと、全国にある交差点を、比較のために、交差点の大きさを1キロとし、交通量を1億台にお置きかえ、死傷事故率に換算するものでございまして、これは、太田駅前では先ほど申しました715.2件/億台キロとなります。国では、この数値が300以上の交差点を対象に、緊急に対策補助を実施することとしてございまして、全国的に比較しましても、715.2という数値で表されるこの交差点は、最も危険な交差点の1つと表現しても差し支えないと思えます。

次に……。

〔私語あり〕

議長（高木将君） 今、答弁中です。続けてください。

建設部長（川又和彦君） 次に、平成20年度事業についてかと思えます。工事関係についてでございます。来年度は、現在の駅前広場を北側に暫定的に移設する工事に着手します。これは、現在の駅前広場が新設されるホームの設置場所となるため、平成21年度にホームを移設し、平成22年度に駅舎を建設する必要があることから、早期に対応するものでございます。

これとあわせ、平成20年度には、ペDESTリアンデッキの撤去並びに歩道橋を継続して利用いただくための仮設階段の設置並びに暫定駅前広場となる現在の駐輪場の移設などを計画してございます。

用地についてでございます。来年度につきましては、市が整備を予定しております新設の常陸太田駅前通り線及び西バイパスの拡張でご協力をお願いします。6軒の家屋の補償と、交通広場を建設するため必要となるJRの所有地の用地取得を行いたいと思えます。

それから、都計審の議事録についてですけれども、これは現在、申しわけありませんけれども、手元にはございませんので、追ってお渡ししたいと思います。

以上でございます。

議長（高木将君） 25番生田目久夫君。

〔25番 生田目久夫君登壇〕

25番(生田目久夫君) ありがとうございます。私の申し上げていることは、事故の実情ですね、あの駅前の。おそらく担当しているのは常陸太田警察署なんですね。それが、申しましたこういう億だの何だのかんだのじゃなくて、それが基本になっていると。ですから、これも物を出していただきたいと。その基本によって、建設計画を立てていると思いますから。

それからもう一つは、今度の開発についての3億3,000何がしの明細をお聞かせいただきたいということであります。

それから、もう時間になります。後でまたこの件はお聞きをいたしますが、今度は木崎トンネルの問題なんです。今、下水道のをやっていると言いますが、ここの前のほうはかなり事業が進んでおります。その場合に、あそこに、非常に使いやすい、便利だと言われている旧保健センターがある。あの旧保健センターを撤去するということが、非常に今叫ばれている。駅から行って近くで、非常に便利がいいんですね。私も調理師や何かで講習会をやったりするには、あそこが駅に近いものですから、集まりがよくて、大変集まってくるわけですが、そこを撤去するというようなことになっているんですが、撤去をするのかどうか。撤去をするとすれば、どのくらいの経費がかかるのか。

それから、もう一つ、何とか撤去をしないで、現在のまま、築後10何年か過ぎていますが、全然傷んでおりませんよね。耐震設計で調査したか知りませんが、とにかく、今の彼らの仕事では有効活用ができると思います。何とか、向こうへ新たにできたのではあります。これをできたら壊さずに……。壊せば金がかかるんですから、何億と、おそらく。そういうことじゃなくて、何とか有効活用をしていただけないかという問題もあるんですが、この点について、またご説明ができればよろしくお願い申し上げます。

以上で終わります。ありがとうございます。

議長(高木将君) 答弁を求めます。市長。

〔市長 大久保太一君登壇〕

市長(大久保太一君) まず最初に、ただいま工事をしております木崎稲木線トンネルに絡んでの道路整備で、保健センターにつきましては、ただいまあります総合福祉会館をつくる段階におきまして、あれを取り壊すをやむなしという結論のもとに進めてきておるところでございます。今の予定としましては、平成21年には取り壊しをし、道路整備に供出するということになるわけでございます。

それから、もう1点……。

〔私語あり〕

議長(高木将君) 結構です。続けてください。

市長(大久保太一君) 先ほど、電鉄線の廃線に絡んだその前後で、駅前の整備計画について、大変、情報が時間的にもシリーズになっていないようなお話がありまして、念のため申し上げますが、議員お手元にお持ちの平成14年の整備計画につきましては、電鉄線がまだ廃線になる前の、JR線と電鉄線の駅舎をどうするか、そういうことを含めた大きな計画でありまして、公費で73億円を計画の事業となっていたはずであります。

その後、電鉄線の廃線に伴いましてその整備計画を見直したのは、行政としては当然のことでありまして、その見直しを図った結果として、ただいまご提示を申し上げている整備計画としたところであります。

なお、突然振ってわいたようなという表現もございましたが、突然ではありません。その前に、何案かの整備計画について、地元にもお示しをいたしまして、その中から地元の皆さんと協議をした上で決定をし、今日に至っているということを申し添えます。

議長（高木将君） 建設部長。

〔建設部長 川又和彦君登壇〕

建設部長（川又和彦君） 先ほどの死傷事故率の関連で、死傷事故件数が何件かというご質問かと思えますけれども、これにつきましては、単年度では誤差が生じる可能性がありますので、平成14年から平成17の平均、すなわち11件を4で割った数値、つまり2.75件、これを代表数値として使っております。

それから、20年度の事業の内訳についてでございますけれども、先ほど申しましたように、撤去につきましてはペDESTリアンデッキの撤去を、それから暫定の駅前整備を、それから補償につきましては、先ほど申しました道路の民有地の用地取得、それからJRの用地取得に要する補償費、それと、調査設計に要する委託費並びにJRに負担する負担金、以上でございます。